



# 小鯖小学校だより 10月号

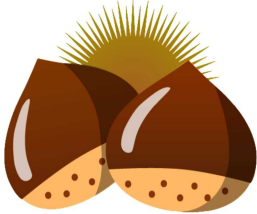
令和2年 10月 1日  
山口市立小鯖小学校

【学校教育目標】 確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生き抜く小鯖っ子の育成

【めざす子ども像】 ㊦: 思いやりのある子 ㊧: さわやか元気な子 ㊨: ばっちり学ぶ子

## 「〇〇の秋」に思うこと…

校長 高田 修司



昔からこの時期には「〇〇の秋」という言葉がよく使われていますが、皆さんはいくつ「〇〇の秋」という言葉を思いつきますか？

中でも「食欲の秋」が人気ナンバーワン（私も！！）らしいのですが、他にも読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋などがありますね。

何をするにもちょうどよい季節で、秋という季節を含む2学期が一年で最も長い学期なので、何事にもじっくりと腰を据えて打ち込める、という意味もあるのでしょう。

ただ、例年と大きく異なるのは、コロナ禍なので子どもたちが楽しみにしていた様々なイベントや行事が減り、あったとしても様々な制約がある、ということです。

小鯖小学校においても、日々決断と選択を迫られてはいますが、日常の衛生管理やリスク管理を徹底して指導することで実施可能な行事を増やし、子どもたちの秋が実り多き「〇〇の秋」になるように頑張っていきます。

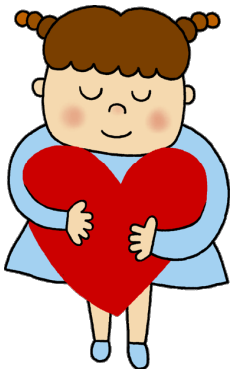
皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



## 「いたずら」から「ケンカ」へのエスカレートを防ぐには？

最初は何気ないつつつき合いやじゃれ合いだったのに、それがいつの間にかケンカに…ということが子どもたちにはよくあります。

そのなかでも、叩いた、殴った、蹴ったという暴力行為がいけないことは当然ですが、そうなる前段階の、「ちょっと今のはイヤだ…」と思ったその時に、その気持ちを相手に伝えることができたら防げたのに…、と思うことがよくあります。



私はコレを「イヤだよサイン」と呼んでいます。このサインを出す能力は、大人になっても、ため込まない、爆発？しない、キレないために、とても大切な「生きる術」だと思っています。

言い方を考えながら相手に直接言葉で伝える、というのがベストなのですが、それが難しかったら、誰かに頼るとか、その場を離れる、ということでも良いと思います。

集団生活にトラブルはつきものですが、なるべくお互いが気持ちよく学校生活を送ることができるように、様々なコミュニケーション能力を身につけていって欲しいものですね。